

不気味な自動のこぎりが唸る！
人肉を切りきざむ音がする！
想像を絶するこの大残酷を
全篇正視できるか？

20世紀に人骨で家具を、人肉でソーセージを作りつづけたテキサスの狂人たち

ヘカラー作品

製作 ■ シェイパー・スレイ

監督 ■ タフ・ラウパー

撮影 ■ ダニエル・パール

音楽 ■ ウェイン・ベル

マリリン・バーンズ

アレン・ダンズイガー

ポール・A・パーティン

アメリカ映画 / 日本ヘラルド映画



悪魔の いけにえ

"THE TEXAS CHAINSAW MASSACRE"



へかいせつ

アメリカ映画史上、これほどの異様な興奮とパニックをもたらした作品はかつてなかった。たとえば全米の映画ジャーナリスト、批評家がこぞって批評を拒否したり、あるいは彼らによって「この作品にとつてはあらゆる批評も無力だろう」という発言がなされたりする事態がそのままこの作品の異常さをもの語っているが、それではいっただい「悪魔のいけにえ」とはどんな映画なのか。

この映画は、いまから20年前、ウイスクンシン州で実際にあった事件をモデルにしているが、実はこうした病理的な犯罪というのはほんの氷山の一角なのである。アメリカという国は時々想像も及ばない犯罪を生み出すことがある。それらの犯罪はしばしば、その犯罪者のパーソナリティを突きつめていくと人間という普遍の本質にまでさかのぼることもあるが、たいていはアメリカという特殊な社会、特殊な風土に生まれた個有のものである場合が多いのだ。

悪魔といふか地獄の狂人といふか、この男だけ4人の家族の楽しみは世間のだれも知らなかった。もし知ったとしたら誰もが神に呪いのことをばを吐いたことだろう。

「悪魔のいけにえ」はそうした背景抜きには考えられないが、その恐怖、無気味さ、不快さはなまじ現実性があるためにいっそう迫力を増してくる。アメリカ本国では11月初頭に封切られたが轟々たる反響を巻き起し、2週目からはあまりのすごさに上映を取り止めるどころまで出現した。

テキサスの真夏。夏の休暇をステーションワゴンでドライブ旅行の計画をした5人、男の子3人、女の子2人。そのまま計画どおりにコトが進めば思い出多い夏休みとなるはずだった。

スタッフ、キャストともにTV畑出身の新人。とくに監督のタブ・フーパーという人のエネルギーに押しまくるパワーと迫力、切れのいい演出はこの新人の力がみなみなならないものであることを示している。

しかし思いもかけない不幸が5人を襲うことになった。舌なめずりをして待ち構えていた狂人の家族。その恐ろしい畏に彼らがかかかってしまう。陰惨で狡猾、残忍としかいえない。

撮影はダニエル・パール、音楽はウェイン・ベル。(原題「テキサスの自動のこぎり大虐殺」カラー/ビスタ/1時間24分)

悪魔のいけにえ



＜カラー作品＞
アメリカ映画
日本ヘラルド映画



THE TEXAS CHAINSAW MASSACRE

へものがたり サリー、ジュリー、フランクリン、カーク、パムの5人の仲良し5人組は夏休みを利用してドライブ旅行に出ることになった。

フランクリンは下半身マヒで車椅子生活の青年だったがだれ一人として彼の世話を厭うものはいなかった。フランクリンとサリーは兄妹だった。

中西部あたりの砂漠から荒野へ、湖沼地帯を抜け、畑のド真中を通り、山を越える。

気のある同士の旅は楽しい。

今日もまた抜けるような空のもと、田舎町を走っていると一人の若い男が道路脇に立って親指を突き出している。

ヒッチハイカーである。

車を運転していたパムが停めるとその男が早速のりこんできた。

一見ヒッピーふうではあるが異様なムードの男である。しかも男は車内に入るといきなりナイフをとり出して自分の手に切りつけたりする。

濁った目、どもりがちの話し方。常人でないことかはつきりしている。

いそいで追い出したものの不快さはぬぐえない。この男がしばらくの後、ふたたびみんなの目の前に姿を現わして惨劇の立役者になるだろうとは誰も予想することができなかった。

夕暮近く、荒野の中の一軒家の前で車を停める。空家だったら今後の宿にしようというわけである。

……扉を開けて案内を乞う。しかし声がない。だが二つの光る目が奥から見つめていたのだ……。

近日ロードショー

新宿東急 (200) 1981